

議長定例記者会見 会見録

日時：平成26年6月2日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 発表事項

○平成26年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について

3 質疑項目

○平成26年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について

○北朝鮮による拉致問題について

○議長定例記者会見について

○目指す議長像・議会運営について

○原子力発電について

1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。早朝よりたくさんの記者の皆さんにお集まりいただきまして、ありがとうございます。私にとりましては、初めてのことでございますので、緊張いたしております。いろいろと戸惑うこともあるかもわかりませんが、初めてのことでございますので、ご容赦いただきたいと思います。

この議長定例記者会見というのは、報道機関の皆さまのご協力の下、議会における様々な取組や県政における課題などについて広く発信することで、県民の皆さまに議会活動について理解を深めていただくなど、大変重要な機会であると思っております。

私といたしましては、これからも引き続き、議長定例記者会見を開催していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、ここで、副議長からも一言、ご挨拶を申し上げます。

(副議長)おはようございます。議長記者会見ということで、副議長はあまりしゃべることはないのかなど、そんな風に思ってますけど、1年間、お願いしたいと思っております。

私の担当である広聴広報のほう、改めるべきところは改め、また、進まなければいけないことは進み、しっかり広聴広報を中心に議長を支え、共にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

2 発表事項

○平成26年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について

(議長) それでは、改めまして、平成26年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について、発表させていただきます。

お手元の資料のとおりでございますが、全国の公共政策大学院、16大学でございますが、その学生2名以内を対象に、今年の9月中の2週間程度を実習期間として、インターンシップを実施してまいります。

このインターンシップの目的につきましては、議会事務局での実務に従事する機会を提供することで、議会の監視機能の強化や政策立案、政策提言の充実等につなげるとともに、学生のキャリア形成の支援や議会の役割についての理解を通じて、地方分権の推進に資する実践的能力を有する人材を育成すること、これを目的としております。

これまでの5年間で計10名を実習生として受け入れており、地方自治の現場を体験する貴重な機会にもつながっているのではないかと思います。

現在、募集を行っていますので、実習生が決まりましたら、改めて発表させていただきます。

3 質疑応答

○平成26年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について

(質問) こういう資質を持ったとか、あるいはこういう志を持ったとか、どんな学生さんに来て欲しいかというのをもう少し詳しく教えてください。

(議長) もちろん、地方政治に関心を持ち、議会に関心を持っている学生さん、応募してくる以上そうだと思いますので、積極的に問題について取り組む意欲のある人に応募を願いたいし、2名という限られた人数でございますので、慎重に審査をして選んでまいりたいなと思っておるところでございます。何はともあれ、やる気のある学生さんであっていただければ一番ありがたいなと、このように思います。

(質問) 実績が書いてあるんですけど、毎年どれくらいの応募者がいるんでしょうか。

(議長) 3ないし4名です。ちょっと少ないですね。そんな感じがします。もっと積極的な応募があってもいいんじゃないかなという気はいたしております。県政に関心を持って臨んでいこうという学生さんですね、しかもこれは公共政策大学院ですから、もう少しあってもいいんじゃないかという期待をするところであります。

○北朝鮮による拉致問題について

（質問）北朝鮮による拉致問題なんですけど、三重県議会さん、去年だと思えますけども拉致議連を作られて、問題解明の、解決の姿勢を示されていますけれども、議長として、今回、日朝間でいろんなことが決まりまして進展が期待されるんですけども、拉致問題の解決に向けて三重県議会としてどう取り組んでいくかというのを改めて教えていただいてもよろしいですか。

（議長）本県議会はですね、昨年12月なんですけど、北朝鮮による日本人拉致問題の全容解明と早期解決を促進させることを目的に、全議員で構成をしております北朝鮮拉致問題解決促進議員連盟が発足したところなんです。私、今日は洋服を替えてきたのでバッチがないんですけども、バッチをつけておる議員もたくさんございまして、それぐらい関心を持って、拉致問題については三重県議会も臨まさせていただきます。今回ですね、非常に明るいと言っただけなんですけど、日朝両政府間で合意された拉致被害者等の再調査が、これまでの事態を打開していく大きなきっかけとなって、拉致被害者の早期帰国、拉致問題の全容解明といった成果につながるよう、本当に大いに期待をしております。今後の調査の進展を見守っていきたくて、こういうふうに思っております。本当に考えてみれば、今回は非常に明るくなった、前が開けた、このような感想です。でも、北朝鮮が今までとってきたことがあるので、あまり軽率にはですね、というふうな気もしないではございませんが、やっぱりこれは非常にひとつの大きな展開だったかなと、こういうふうに思わせていただいております。

ー第二県政記者クラブも含めてお願いしますー

○議長定例会見について

（質問）議長定例会見の件で、議長のほうからおっしゃっていただいたので、確認させていただきましますけど、会見というのは、およそ国会等を含めてですね、日本新聞協会等は会見というのはあくまでもクラブ主体だという形でやって、百歩譲っても、首相会見なら政府側と例えば内閣記者会だとかクラブの共催の形、百歩譲ってですけど、その形になって、知事定例会見等も本来なら三重県内の県政記者クラブ等と執行部の共催の形になっている。議長定例会見については、もともと共催であったにもかかわらず、一昨年議会の基本条例のときに、定例会見というのを書き込むかどうかという問題があって、共催ということを経済側がお忘れになって、そのまま突っ走られて、プロジェクトのほうで書き込みのないまま宙ぶらりんに浮いているから、議長が替わる度ごとに定例会見をやるのかどうかという確認をさせていただく形になってるんですけど、

この点について、来期改選ですが、時流の流れによって基本条例も当然変わっていきわけで、その時にある程度書き込むかどうかというふうなことを、議長はどういうふうに考えていますか。

（議長） 前議長のときの情報を得ていないんですが、私はこれまでずっと県政を見てまいりまして、やっぱり開かれた県政ということからすれば、定例記者会見というのは実施をしていくべきだと思っておりますし、県政の情報公開のひとつの手段として、大変に私は大事なことだと思っておりますので、定例記者会見についてはきちっと実施をしてまいりたいなと思います。ただ、書き込んであるかどうかちょっと確認をしてないので、いっぺん確認をさせていただきますけど、もしそういうことであればですね、もういっぺんさらに調査をさせていただきます。私の基本方針はそうです。やっぱり開かれた県政じゃないですか。情報公開は大事です、そして県民の皆様にはですね、そういった情報をきちっと伝えていくということがやっぱり基本でありますから、定例記者会見というのは共催として実施して、きちっとやっていくというのが建前だというふうに思っております。

（質問） 調査するまでもなく、プロジェクトチームの会議録読んでいただいたら分かる話なんですけど、座長が辞められた竹上さんだっただけだと思いますが。要は共催で、100歩譲って共催なんですけど、そのときに記者クラブ関係者含めて、じゃあ書き込む云々で意見を聴くこともなく、こちらから申し入れたこともあったんですけど、無視されたままいったんですけど。そういうことを含めて一応調べられて、今後必要ならば次期においては書き込むとかそういうことも全体に諮るといふ、そういうお考えでよろしいですか。

（議長） 大変ご無礼なことになってしまいましたけど、私がいっぺん調査をして、そしてまた皆さんとのそういった場を持ってですね、いい方法の結果に落ち着けていければなと思いますので、これはひとつ理解してください。決して、私、それは否定するものではありません。

○目指す議長像・議会運営について

（質問） 前回、議長ご就任のときに、ちょっと聞き漏らした恒例でお聞きすることがあるんですけど、永田議長の場合は目指される議長像みたいなものっていうのは、どういうふうに捉えられていますか。101代の萩野議長のときに、リーダーシップを持ってやる議長もあれば、私のように後ろから議員たちというか、議会を支えたいと、そういう議長像もあると、できたらそういうものを目指したいということをおっしゃったんですが、永田議長の場合はどういう議

会運営、議長像を目指されるんですか。

(議長) もちろん議長というのは議員から選出された議長でございますのでね、やっぱり議会の意見を尊重して臨むということには変わりはありません。ただ、せっかくですね、今、三重県議会も全国に先駆けて、議会改革について本当に先進議会であります。この先進議会をやっぱり引き続きですね、三重県議会は全国議長会の会長も2年間も務めさせていただいたことでもございますし、先導してやっていくことがわれわれに課せられた責任でもあるのかなというふうに思わせていただきますので、議会が全員一致してですね、改革先進議会としても臨んでいきたいなと、そういうように思っておるところでもございます。それと、もう一つ申し上げたいのは、せっかく議長という大役を拝命したわけです。今ようやく長年続いてまいりました景気低迷もですね、政権交代後、非常にどっちかって言うと、なんだかんだと言う人もいらっしゃいますが、私は明るい方向に向かっているということが言えるのではなかろうかと、こういうふうに思います。したがって、この明るい方向づけを三重県政としても、どうして持続させていくかということが大事だと思います。したがって、そのための議会としてはどうあるべきかということを考えながら、今一つ私が前から申し上げております県政進展という言葉を使わせていただいたわけですが、やっぱり生き生き三重県、要するに躍動してるな、動いてるなと、こういう三重県でありたいなというのが今回のですね、一つの私の大きな目的でもございます。したがって、リーダーシップ、これはもちろん大事ではございますが、それも大事でありながらも、やっぱり三重県議会として議会の思いというものをきちっと携えていくのが議長だと思いますので、そこら辺はよく議員全員がそういう思いでなるように、なるべくですね、心合わせを一つにした形にもっていききたいな、このように思っておるわけです。なかなかそれについては時間もかかる大きなことかもしれませんが、可能な限り、そういう思いでこの1年間取り組んでいきたい。

(質問) 改革先進議会を継続ということなんですけど、ほとんど改革っていうのは三重県議会の場合は終わっていて、未知の分野というのは全国の議会を見てもあまり残っていないという話もありますが、議長がお進めになりたい改革、これからこれをやって先進議会の位置づけを維持しようという政策テーマがあるんですか。

(議長) それは前にもちょっと申し上げましたけれども、確かに三重県は非常に改革に一生懸命になってやってまいりました。そして、改革議会って言えば三重県が筆頭に出てくるような三重県議会を諸先輩が作り上げてきた。これは

本当にその功績は大だというふうに思っていますので、今ここでもう一回ですね、じゃあ改革とはなんだということをもう一回ちょっと総括してみる必要があるんじゃないかなと、こういうふうに思っております、じゃあ総括した上でですね、じゃあ三重県の議会として改革を今後どのようにしていくかということの方向付けをしていくことかなというふうに思っております。今、通年制という問題が一つ出てきたわけではありますが、私は実は議会改革推進会議の役員でもありましたし、しかも副会長という大役もいただいております、そういうことを考えるとですね、通年制を最初に唱えてきたのは私でした。議論する中で、一挙に通年制はどうかなというような話になりまして、私も引かざるを得なくて、2定例会制にとにかくもって行って、やっと今、実は私の思いが実現したと言いますか、通年制が実現し、ずっと歩んでおることをございます。私は通年制もどうかなということで、今ここまでやってきて、今後とも通年制でどうなのかという、やっぱり私はそういう総括というんですかね、そういうことをやっぱりやるべきかなというふうにも思っております。すべてが正解と言えませんのでね、やっぱり改めるべきは改めてというのがいいんじゃないかと、こういうふうに思います。長崎でしたか、通年制であって元に戻したということもちょっとお聞きしておりますし。

(質問) 総括をやるっていう実際の部署というか機関は、議会改革推進会議でよろしいですか。

(議長) そういうことです。

○原子力発電について

(質問) 永田議長が議長になられる前に、一般質問等でエネルギー政策に関して原発容認の形のご発言なり、ご質問をされておりますが、これについて議会全体の合意なり何なりを、議長任期中にある程度働きかけるとか、あるいは原発再稼働を含めての意見書等を国に出されるとか、そういうことで議長が主導されるとかいうお考えはあるんですか。

(議長) これはなかなか大きな問題でありますし、国政の問題に関わってくる問題でございますので、議長としての発言で、ここでそういうことを申し上げにくいのが今の私の心境です。

(質問) ただ、再三再四、確か3回か4回くらいその関係の質問をされていますよね。

(議長) はい。

(質問) 当局から一応ある程度、当局は別に踏み込んだ答弁はしなかったですけど、そのところを原発再稼働と見合わせながら、要はエネルギー政策の観点からと議長はおっしゃってますけども、その思いは議長になられようと変わらないわけですか。

(議長) はっきり申し上げます。変わっておりません。けれど、議長という立場では、なかなかそれはちょっと、今日の記者会見で、ということは差し控えたいと思います。これで一つ勘弁してください。

(質問) 何度か二人ばかり議長会見でもお聞きしましたが、三重県議会は、芦浜原発における調査推進の決議をされていますよね。議会として要は芦浜原発立地の関係市町の調査なんですけど、これについて決議はされたままですから、賛成多数で。これについて撤回決議して、ニュートラルな形で再度考え直すのか、これはこれでこのまま棚にしまっておくのか、その辺のお考えはどうですか。

(議長) 今の社会経済情勢がかなりその当時とは変わってきておることはご理解いただけたらと思うんです。したがって、リニューアルするかどうかということも、一遍ですね、議会で慎重にやっぱり議論する必要があると思っております。この問題についてはね。

(質問) 議論の場というのはどういう場ですか。

(議長) 本来ならば常任委員会の場合ということもあるんでしょうけども、この問題については、特別委員会が前にもありましたし、こういう問題については機関はないんですが、こういう問題について三重県も、言ってみれば原発の当事者でもあった県でもありますので、これについては、もう一度ですね、原点に戻ってじゃあどうするという問題はですね、議会としては議論する場が必要ではないかと思っております。今、どういう機関をとということにはならないと思うんですが、私の議長就任中にはですね、議論の場だけでも作りたいなという思いであります。なかなか難しい問題です。だいぶ情勢が変わっております。それは理解してください。

ーその他、よろしいでしょうか。ありがとうございましたー

(議長) 生涯初めてでございますので、いろいろとこれから1年間お世話にな

っていくことと思いますが、どうぞ一つ三重県政の進展、生き生き三重のために情報発信を皆さんにもお願いをすることでございます。開かれた県政でまいりたいと思いますので、どうか一つ今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(以 上) 10時57分 終了